

今回の事象を踏まえた定期事業者検査への反映について

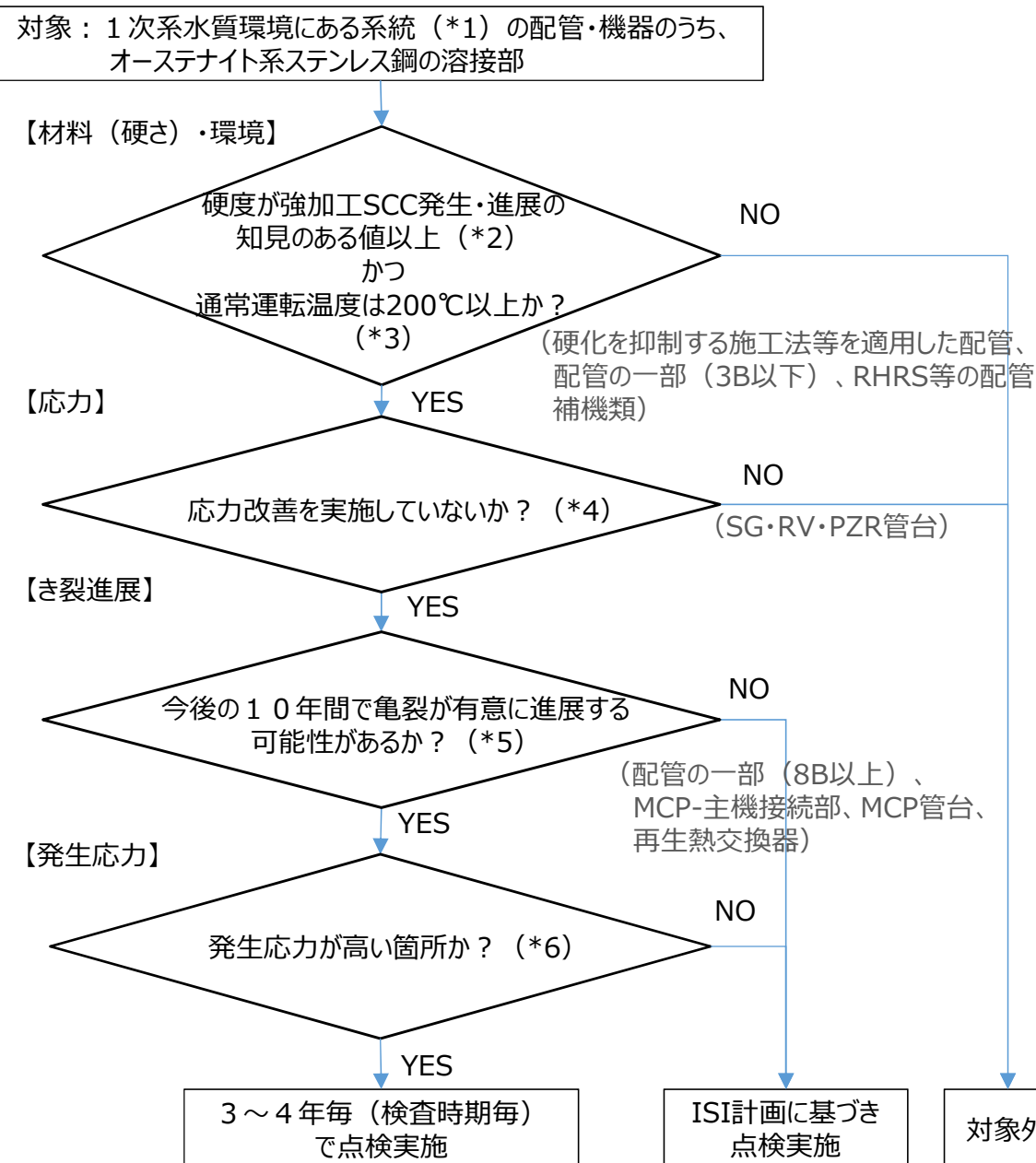
関西電力株式会社

2020年12月4日

今回の事象を踏まえた定期事業者検査への反映について

調査結果を踏まえた強加工SCCに対する今後の検査として、当社7プラントにおいて、以下のフローで抽出された対象箇所に対し3～4年毎^(注)で定期事業者検査の中でUTを行い、健全性を確認していく。

(注) 維持規格における検査時期毎に検査を行う。



(*1) RCPB,RCS,CVCS,SIS,RHRS,CSS

(*2) PWR環境中の強加工SCCの挙動(発生及び進展)は硬度に依存するため、硬化を抑制する施工法等により、**SCC発生・進展の知見のある硬度以上**となっている配管溶接部は対象とする。

(*3) PWR環境中の強加工SCCの挙動(発生及び進展)は温度に依存するため、**運転温度200℃以上の溶接部**は対象とする。

(*4) PWR環境中の強加工SCCの挙動(発生及び進展)は応力に依存するため、**応力改善(バフ研磨やピーニング)を実施していない溶接部**は対象とする。

(*5) UT検出限界の初期き裂を仮定し、10年間の強加工SCCの進展評価を行い、**亀裂深さが板厚に対し20%を超える溶接部**を対象とする。

(*6) 強加工SCCの進展に対する、運転による発生応力の影響を加味して、**発生応力が高い溶接部の上位3箇所**について、3～4年毎(検査時期毎)に定期事業者検査の中で点検を実施する。

なお、強加工SCCについては知見を拡充していくこととしており、今後、得られた知見をフローに反映することで、強加工SCCに対する検査による監視を行っていく。